



(標題：中野雄一 元病院長)

## 本院のロゴマークを策定しました

本院の取り組みを社会に周知し、ブランドイメージを確立するために、ロゴマークを策定しました。ロゴマークは本学の教職員及び学生にデザインを公募し、応募のあった23作品の中から、病院グランドデザイン策定WGにおいて議論を重ね、2つのデザインを選定しました。

| ロゴマークA<br>(シンボルマーク) | ロゴマークB<br>(英語表記) | ロゴマークB<br>(日本語表記) |
|---------------------|------------------|-------------------|
|                     |                  |                   |

### 【ロゴマークA (シンボルマーク)】 ～トキがつなぐ、新しい大学病院～

病院の所在地である旭町＝「朝日」と心が洗われる日本海側の美しい「夕日」をモチーフに、オレンジの太陽と日本海の青をイメージしています。

中心には翼を広げ羽ばたく県鳥の朱鷺をシンボルとし、太陽と日本海が患者と医師、それを繋ぐ朱鷺が本院というメッセージも込めています。

朱鷺の羽ばたく姿は、本院が日本海側における最先端の教育・研究・診療拠点となり、ここ新潟から日本全国さらには世界中に成果を配信したい（羽ばたきたい）という願いも込めています。

### 【ロゴマークB (英語表記) / ロゴマークB (日本語表記)】

日本海側における最先端の教育・研究・診療拠点を表現するため、青い波をメインモチーフとしました。波の2色のグラデーションと丸いしぶきが教育・研究・診療を表しています。

また、波の形は、新潟のniもイメージしています。

## 本院の理念・目標

### ◆ 理念 ◆

- ・生命と個人の尊厳を重んじ、質の高い医療を提供するとともに、人間性豊かな医療人を育成します

### ◆ 目標 ◆

- ・患者本位の安全で安心できる医療を提供します
- ・豊かな人間性と高い倫理性を備えた質の高い医療人を育成します
- ・研究成果を反映した高度で先進的な医療を実践します
- ・地域連携を推進するとともに地域の医療水準の向上に貢献します
- ・病院運営の適正化と効率化を促進します

## 患者の権利と責任

1. 個人の尊厳が尊重され、良質で公平な医療を受けることができます
2. 病状、治療、看護等について十分な説明と情報提供を受けることができます
3. 他の医療機関の医師の意見（セカンドオピニオン）を聞くことができます
4. 自分が受ける医療について自分の意思で決めることができます
5. プライバシーが尊重され、医療の過程で得られた個人情報は保護されます
6. 医療者と協力し、自らの医療に積極的に参加する責任があります

## 平成28年 熊本地震における医療救護班の活動について

平成28年4月に発生した熊本地震で被災された皆様には心からお見舞い申し上げます。本院は新潟県が派遣した医療救護班（全6班）の第1、2班として、4月21日～30日まで、医師、看護師、薬剤師など計11名の職員を被災地に派遣しました。被災地においては、巡回診療に加え、多数の病院から派遣された医療チームの調整、被災情報の収集などの本部活動を行いました。

本院では災害対策マニュアルを策定し、定期的に災害対策訓練を行うなど、県内外の災害に対して万全の態勢を整えています。万が一、病院内に滞在中に地震などの災害が発生した場合は、落ち着いて近くの職員の指示に従って行動をお願いします。



自衛隊と今後の支援方針について打合せの様子

## 絵画の寄付をいただきました!

この度、医師として地域医療に尽力しながら、画家としてもご活躍されている小林晋一様から、患者さんの慰安のために絵画の寄付をいただき、外来診療棟1階の廊下（形成・美容外科外来向かい側）に展示しました。新潟の万代・八千代・昭和大橋の風景を描いた油絵が展示され、廊下の雰囲気が明るくなりましたので、ぜひ多くの患者さんにご覧いただきたいと思います。



## 患者用駐車場の混雑状況の案内版の設置について



平成28年4月に外来診療棟の入口（アメニティモール前）に患者用駐車場の混雑状況の案内版を設置しました。案内版に混雑状況を「満」・「混」・「空」で表示しておりますのでご確認ください、空いている駐車場をご利用いただけますようお願いいたします。送迎の方がいらっしゃる場合は外来診療棟前のロータリーで患者さんに下車いただくことも可能です。

なお、交通渋滞等の緩和のため、可能な場合はバスなどの公共交通機関を用いてご来院いただくよう、ご協力をお願いします。



## 中央診療施設紹介 ②①

## 不整脈センター

不整脈センターは、高度な不整脈診療を推進する目的で2012年に当院に設立されました。循環器内科、心臓血管外科、小児科と連携し、高度先進医療技術を駆使し不整脈の診断および治療を入院患者さんに提供しています。

不整脈には、心拍が乱れる病態（期外収縮）、心拍が速くなる病態（頻拍性不整脈）と心拍が遅くなる病態（徐脈性不整脈）があります。また、心臓の電気活動の障害により協調した心収縮ができなくなることで心臓機能が低下する病態（心不全）があります。不整脈の手術的治療は大きく2つの方法があります。

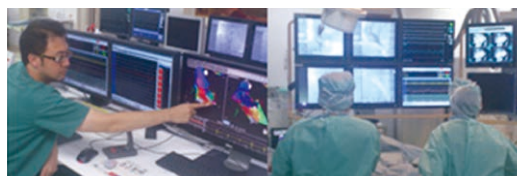
ひとつは不整脈の原因となっている異常な興奮部位や伝導部位をカテーテルで治療するアブレーション治療です。WPW症候群、発作性上室性頻拍、心房粗動、心房細動、心室頻拍、心室細動などの頻拍性不整脈が主な対象となります。

もうひとつは不整脈デバイス治療で、ペースメーカー治療、植え込み型除細動器治療、心臓再同期治療があります。徐脈性不整脈に対しては、ペースメーカー植え込み手術が行われます。ペースメーカーは

心拍を常時監視し、心拍数が低下しないように心筋を電気刺激します。突然死の危険性が高い重症の不整脈に対しては、除細動器植え込み手術が行われます。植え込み型除細動器は、心拍を常時監視し重症の心室頻拍や心室細動発作をきたした際に、抗頻拍ペーシングや除細動ショックという方法で不整脈を停止します。心室内伝導障害を伴った心不全に対しては、心臓再同期治療が行われます。心房と右心室および左心室の複数箇所から電気刺激することで心臓の収縮を協調させ、心機能改善させる治療法です。

このように不整脈の治療は、様々な薬物療法のほかに、多くの手術的治療法があります。不整脈センターでは患者さんの病態にあった治療法の選択を行いたいと考えています。不整脈の診断や治療にお悩みの際は、当院循環器内科にご相談ください。

（不整脈センター 部長 南野 徹、助教 和泉大輔）



## 病気の基礎知識 ②① 「顔面神経麻痺」

顔面神経麻痺は様々な原因で起こりますが、その半数以上はウイルス感染によるもので、ある日突然、眉毛があげられない、まぶたが閉じられない、口元がゆがむ、水を飲むと口からこぼれる、といった症状が出現します。

その後症状が進行、固定し、そこから順調に回復するものから後遺症の残るものまで、経過・予後は様々です。

急性期には耳鼻咽喉科で加療されることがほとんどで、大部分の患者さんは順調に回復しますが、一部の患者さんでは後遺症が残り（陳旧性顔面神経麻痺）、そのせいで、他人とのコミュニケーションの中で無用な誤解を招き、トラブルの原因となったり、対人関係に消極的になり、引きこもりがちになってしまう患者さんも少なくありません。形成外科では主に陳旧性の顔面神経麻痺を扱っています。

後遺症としては、全く表情筋が動かない完全麻痺、部分的に表情筋が動く不全麻痺、動かしたい部位以外の表情筋が動いてしまう病的共同運動、がありますが、当科では、いくつかの手術方法や

注射などを組み合わせた治療をおこなっておりますので、こうした症状のある方はぜひ受診ください。

治療法の一例ですが、筋肉や神経の移植手術により、麻痺した表情筋を動かすことができるようになります。これを動的再建術といいます。

大きな手術を希望されない患者さんには、局所麻酔で眉毛やまぶたの垂れ下がりに対してつり上げる手術、口角の垂れ下がりに対しては筋肉の膜を移植してつり上げる手術などを行います。これを静的再建術といいます。

また、病的共同運動（「ウー」「イー」と口を動かしたときに麻痺した側のまぶたが閉じてしまう）に対しては、手術により過剰な運動を起こす筋肉を減量して顔のバランスを整えることができます。また、手術以外にもボツリヌストキシンを異常な動きの強い部分に注射し、表情筋のリハビリテーションと組み合わせることで症状を和らげることができます。

（形成・美容外科 教授 松田健、特任助教 渡邊玲子）

## 病院功労賞を授与しました

本院では、診療業務、卒後臨床教育、臨床研究、病院の運営改善等において、特に顕著な功績を挙げた職員に対し、その功績をたたえ、「新潟大学医歯学総合病院功労賞」という表彰を実施しております。平成27年度受賞者は6名で、表彰式は平成28年4月15日病院スタッフ対象研修会の終了後に行われました。

### 【平成27年度受賞者】

- ・勝良剛詞（歯科放射線科）
- ・渡邊苗実（検査部）
- ・平林久美、川口佳菜、藤中美佐子、吉田佑香（看護部）

なお、本院では今後も顕著な功績を挙げた職員に対し、表彰を行っていくこととしております。



## 入院患者さん向けのコンサートを開催しました

本院では定期的に入院患者さん向けのコンサートを開催しております。今年開催した2回のコンサートはいずれも約80名の入院患者さんおよびご家族の方に参加いただき、おおいに盛り上がりしました。

引き続き、入院患者さんに喜んでいただけるイベントを計画していますので、たくさんの方のご参加をお待ちしております。

※ 必ず主治医の許可を受けた上でご参加ください。

### ●さくらコンサート（4月）

産科婦人科の榎本教授を中心とした職員や学生がショパンやバッハなどクラシック音楽を中心とした楽曲を演奏しました。



### ●医学部合唱団のミニコンサート（6月）

約40名の医学部合唱団が素敵な合唱を披露し、最後に「ふるさと」を患者さんと一緒に歌いました。

## \* \* \* 患者さんからのお言葉のご紹介 \* \* \*

本院は外来と入院を併せて、1日あたり約3,000名の患者さんを診察しています。患者さんから寄せられたお言葉の一部をご紹介します。（※紙面の都合上一部、要約・編集をしました）

●主人が二ヶ月入院しました。看護師さんが、どの患者さんに対しても、思いやりのある態度で接していて何かと言葉をかけて、そばにいてとても気持ちがよかったです。大変お世話になり、本当にありがとうございました。

●歯科で、写真撮影の際、唇をおさえる器具を水で濡らして下さる配慮がありありがとうございます。口のまわりが乾燥していると痛いのです。

本院では引き続き、職員一同、患者サービス向上に努めてまいります

新大病院たより「和」のバックナンバーは本院ホームページ  
(<http://www.nuh.niigata-u.ac.jp/about/koho.php>) をご覧ください。

発行 新潟大学医歯学総合病院広報委員会  
(お問い合わせは総務課総務係 電話 025-227-2407,2408まで)